

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年7月13日(土)

活動隊員:福島 芳子、増野 園恵

1. 活動期間

2024年7月9日(火)8時00分 ~ 2024年7月11日(木)17時00分

2. 活動場所

避難所:正院公民館(石川県珠洲市正院町正院22部2番地1)

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

珠洲市立宝立小中学校(石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83番地)

日置公民館(石川県珠洲市折戸町チ部34番地)

日置ハウス(石川県珠洲市折戸町又部8番地)

応急仮設住宅:正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

正院町第2団地(正院ゲートボール場・石川県珠洲市正院町正院2部1番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

3. 石川県珠洲市の被害状況(7月9日14:00時点 石川県庁情報 第144報)

人的被害 死者:114人 うち災害関連死:17人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:6,763棟 非住家被害:5,544棟

通水率 84.3%(4,041戸/4,791戸) 7/9 珠洲市情報

避難所 開設23か所 避難者数300人 7/9 珠洲市情報

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館 7月9日:2人

大谷小中学校 7月11日:25人

宝立小中学校 7月10日:44人

日置公民館 7月11日:2人

日置ハウス 7月11日:26人

【避難所運営及び生活状況】

1) 正院公民館 訪問日時:7月9日(火)15:00頃

本部長不在の際には、仮設住宅居住者の有志等が交代で本部滞在中、訪問者対応等をされている。現在も自宅で水道使用ができない住民の方は、避難所入口外の給水所を利用している状況が続いている。家屋片付け支援ボランティアや解体業者が、避難所入口外に設置されている仮設トイレを利用している。

2) 大谷小中学校 訪問日時:7月11日(木)14:10頃

スポットクーラーが設置され、常駐の消防士により生活空間の暑さ指数等の継続的なモニタリングと記録が実施されていた。大谷小中学校グラウンドでは、仮設住宅の建設準備が開始されていた。

3) 宝立小中学校 訪問日時：7月10日(水)15:00頃

自衛隊による入浴支援は毎日15時～21時で継続している。仮設住宅居住者や在宅者の利用もあることで、利用者数は横ばいである。体育館では芸能人の慰問もあり、小中学生と避難者が一緒に参加されていた。

4) 日置公民館 訪問日時：7月11日(木)15:30頃

入浴は近くの日置ハウスを毎日利用している。仮設住宅が近くに42戸建設中(7月23日完成予定)で、避難者は入居申込を済ませている。上下水道利用可能、冷房完備で、雨の日には室内に洗濯物が干せるスペースもある。

5) 日置ハウス 訪問日時：7月11日(木)16:10頃

滞在交流の拠点の宿泊施設であった建物で、洗濯機・乾燥機・浴室・水洗トイレが利用できている。訪問時は、廊下の窓が開放されて風通しがよく過ごしやすい環境であった。日置公民館の避難者同様に多くの避難者は入居申込を済ませている。

5. 仮設住宅の状況

【正院町第1団地：正院小中学校グラウンド76戸】訪問日：7月9日(火)、10日(水)、11日(木)

集会所の鍵管理体制が決まり、毎日8時～18時まで鍵が開けられ、住民に開放されている。集会所使用簿で利用者管理を行い、予約のある日は最大21時まで利用可能としている。18時以降は、地域住民の会合や自主的なコミュニティカフェが開催され、仕事帰りの若い世代も参加されていた。

【正院町第2団地：正院ゲートボール場28戸】訪問日：7月9日(火)13:00頃

駐車場には車が数台止まっている。仮設住宅から車で出かける住民の姿も見られた。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド153戸】訪問日：7月10日(水)15:00頃

集中豪雨で、一部の仮設住宅周囲に水たまりが生じていた。集会所でのお茶会も定期的に開催され、住民に周知されてきている。入浴は、仮設住宅のお風呂ではなく、避難所に設置された自衛隊の入浴施設を使用している方もいる。

6. 支援活動の実際

【避難所巡回支援：正院公民館】

本部長からお話を伺う。避難者1名は仮設住宅入居が決まり、もう1名も避難所から移動されることになり、次週には滞在者0名となる予定である。避難所閉鎖の具体的な日は確定していない。自宅で水が利用できずに、トイレ処理凝固剤をもらいに来る住民がいる。また、避難所入口外に設置されている仮設トイレは、避難所が閉鎖しても家屋片付け支援ボランティア等の利用があるため、避難者0となってもすぐに撤去は難しいのではないかと話された。

【避難所巡回支援：大谷小中学校】

県保健師2名と同行訪問した。珠洲市総合病院理学療法士より、避難者1名の受診実施状況を確認して欲しいとの依頼を受け、体調確認および面談を実施した。体調悪化はないが、震災以降、受診しておらず、現在、持病の内服薬は手持ちがなく未服薬である。かかりつけ医は市外遠方で受診が難しいことから、次週、お薬手帳を持参し近医を受診するよう伝え、避難所運営者にも受診の確認をお願いした。外気温28、居住空間の暑さ指数21.7、温度24.2、湿度73.9%であった。

【避難所巡回支援：宝立小中学校】

珠洲市総合病院理学療法士 1 名と共に訪問した。本部長より高齢世帯夫婦 1 組の巡回依頼を受け、体調確認および面談を実施した。準半壊で水が使用できない自宅での暮らしの不安もあり、避難所生活を継続されている。ご主人の体調については、かかりつけ医受診時に相談するようアドバイスをした。今後、理学療法士が 2 週間に 1 回程度訪問することを伝え、ご夫婦ともに安心されていた。

【避難所巡回支援：日置公民館】

県保健師 2 名と同行訪問した。高齢世帯夫婦 1 組の面談を実施した。生活習慣病の持病あり。避難生活による運動不足や食生活による体重増加により下肢疼痛による歩行障害が生じていた。夫婦で県外医療機関へ定期的に通院中である。今後、仮設住宅へ移動予定で、避難者は近く入居する準備を進めていた。

【避難所巡回支援：日置ハウス】

県保健師 2 名と同行訪問した。居住空間の暑さ指数 24.2 、温度 27.5 、湿度 67.4%であった。施設の一部では、外部支援ボランティアの宿泊が可能である。

【地域コミュニティ支援】

n いっぶくせん会ね（お茶会）開催

開催場所：正院町第 1 団地集会所

開催日時：7 月 9 日（火）～11 日（木）10:00～12:00

参加者数：7 月 9 日（火）14 人、7 月 10 日（水）15 人、7 月 11（木）17 人

正院第 1 団地、正院第 2 団地、蛸島団地、在宅の方が参加された。

7 月 9 日（火）：血圧測定と健康相談後、健康増進センター理学療法士による健康体操が 30 分ほど実施され、参加者は熱心に取り組まれていた。見舞金や次週に開催されるスマホ講座の案内があった。体操後、災害看護学会主催で、ささえ愛センターの協力にて、都道府県クイズを実施した。参加者は、訪れたことのある観光スポットやご当地名物を思い出しながら、参加者同士が楽しく会話をしていた。お茶会の場で、住民から、参加したささえ愛センター担当者に、居住者の体調を心配する情報提供および訪問依頼があり、ささえ愛センターで訪問し、医療機関受診につながった。

7 月 10 日（水）：血圧測定と健康相談後、外部支援団体による小物入れ作りを実施した。参加者全員が上手に針に糸を通し、好みの色柄を選び、指導を受けながら手縫いをしていた。縫いながら、お互いの家族の近況を話す等、会話がはずんでいた。出来上がった作品を互いに見せ合い、嬉しそうに自宅に持ち帰っていた。

7 月 11 日（木）：血圧測定と健康相談後、正院小学校 4 年生 3 名（教員 2 名同行）が道徳の授業で「ふるしき」で包む体験を地域住民から教えてもらう授業を実施した。参加者の一人が講師となり、ティッシュ Box やペットボトル等、参加者も初めてのつつみ方を、子どもと一緒に楽しそうに習っていた。市外に避難中で、今週、自宅に一時帰宅し、お茶会に 3 日間参加された方は、「今週は楽しかった」と言われていた。

n 宝立集いの会（お茶会）開催

開催場所：宝立町第 1 団地集会所

開催日時：7 月 10 日（水）13:00～14:45

参加者数：13 人

血圧測定と健康相談、見舞金の案内後、健康増進センター理学療法士による健康体操が 30 分ほど

実施され、参加者は音楽に合わせての体操を楽しそうに実施していた。体操後、災害看護学会主催で、ささえ愛センターの協力を得て、都道府県クイズを実施した。参加者は、声を出して積極的に参加していた。出身地のことや訪れたことのある観光スポット、ご当地名物を思い出され、笑顔が見られた。帰りには、「今日は一番いい日だった」との発言があった。

【仮設住宅支援：宝立町第1団地】

n 入居者相談支援

ささえ愛センターが訪問した入居者に関して、医療的アドバイスが必要なケースについて相談を受け、今後の対応方法について助言をした。今後の経過をみて、必要に応じて同行訪問をすることになった。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【避難所巡回支援】

日置地区では、仮設住宅の建設が進み、避難生活の場が仮設住宅へと移動するため、継続的に訪問し、新たな環境への対応状況の確認が必要である。また、孤立した状態になると心身の健康面を含め様々な問題につながるため、地域コミュニティの再構築支援を開始していくことが重要と考える。

【地域コミュニティ支援】

正院町第1団地集会所のお茶会開催実績から、開催の必要性が確認され、各地域の仮設住宅集会所でお茶会が開始されはじめた。今後は、お茶会運営が住民の負担やストレスとならないよう、活動を見守り支えていきたいと考える。住民主体で企画されるお茶会の内容は、住民の地域への思い、地域のつながりを育み直す創造的復興のプロセスであると感じた。また、お茶会が、体調確認や健康相談の場でもあり、住民を見守る「ささえ愛センター」への情報提供や相談の場となってきたことは、災害関連死の防止となり、寄り添い型の継続的な見守り支援が確立されつつあると考える。

参考：現地の様子



正院町第1団地集会所
いっぶくせん会ね（小物入れ作り）



宝立町第1団地集会所
集いの会（健康体操）